

県央・湘南の 環境と共生する都市づくり NEWS

No. 18

2007.3

● 新幹線新駅の実現をめざす、環境共生の都市づくり通信 ●

県央・湘南の個性を活かしたまちづくり～ツインシティにIT時代の企業が栄えることを夢見て～

株式会社日立製作所 梶浦敏範

P2

県民フォーラム

「新幹線新駅と地域づくりを考える」を開催しました

P4

コラム「新駅に期待する」

綾瀬市長 笠間城治郎

P5

慶應義塾大学 SFC Open Research Forum 2006

まちづくりアイデアコンテスト

神奈川県知事賞を贈呈しました。

P6

「ツインシティ整備に係る企業・大学懇談会」から、知事に提言書/
「ツインシティのまちづくりフォーラム」を設立しました/

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会

P8



最新ニュース –第6回線引き見直しについて–

神奈川県では、平成20年度末を目途に、「第6回線引き見直し」が予定されています。

ツインシティ予定地区の平塚市大神地区と寒川町倉見地区は、現在その大部分が市街化調整区域であり、ツインシティの計画を進めていくために、この「線引き見直し」(※1)において「特定保留区域」(※2)の位置づけをめざしています。

「特定保留区域」の位置づけにあたっては、地権者の合意形成、まちづくりの組織化、事業進捗状況などから総合的に判断されることになります。

現在、平塚市大神地区では、土地利用計画案の検討を進めるとともに、地権者の皆様のまちづくりに対するご意見を伺うため、「ツインシティ（大神地区）推進委員会」の協力を得て、平塚市により意向調査が実施されています。

寒川町倉見地区におきましても、本年2月に開催された「東海道新幹線（仮称）倉見新駅促進協議会 第2回幹事会」において、寒川町と県から、「第6回線引き見直し」の概要について説明を行いました。

ツインシティの具体化に向けて引き続き、県、平塚市、寒川町が一体となって取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※1 「線引き見直し」・・・市街化区域と市街化調整区域の区分を都市計画に定めること。

※2 「特定保留区域」の設定・・・市街化調整区域内に市街化区域への編入を保留する区域を設定し、計画的な市街化整備の見通しが明らかになった段階で、市街化区域に編入される。



神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会

〔神奈川県、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、相模原市、厚木市、伊勢原市、海老名市、座間市、綾瀬市、寒川町、県市長会、県町村会、県商工会議所連合会、県商工会連合会〕

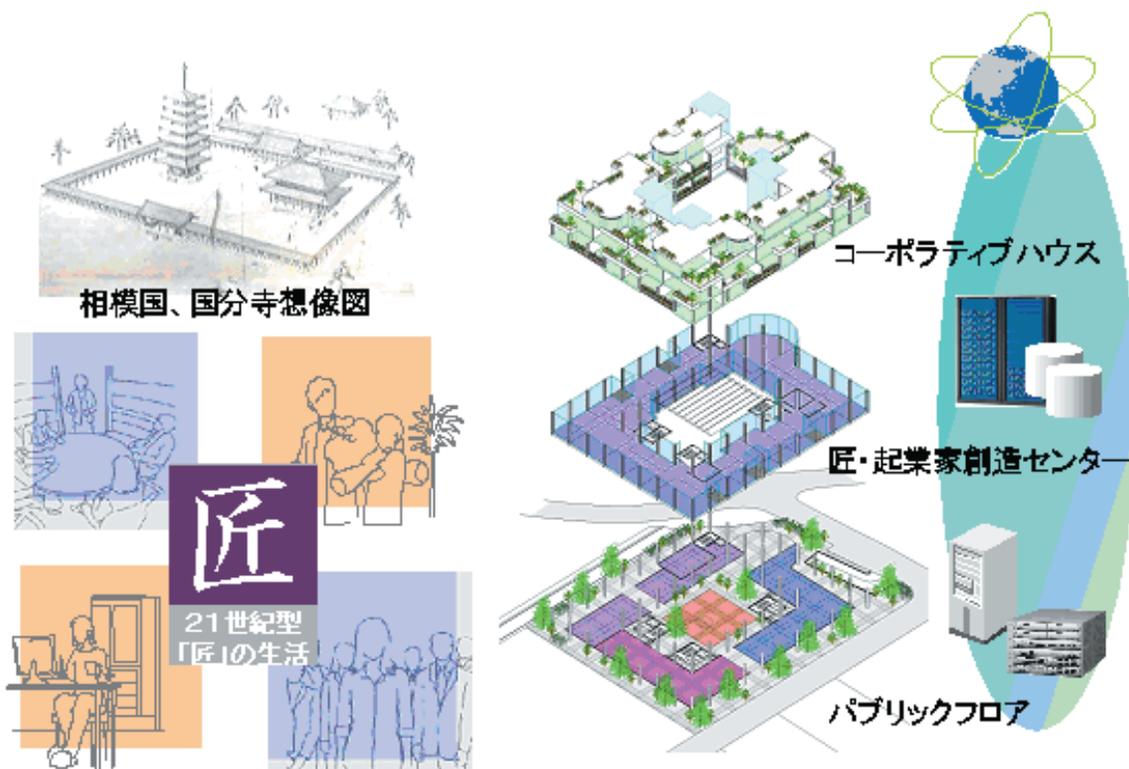
県央・湘南の個性を活かしたまちづくり

IT（情報技術）は、20世紀後半に最も進歩した技術といえるでしょう。かつては大学の電算センターや大企業にしかなかった大型計算機と同等の計算能力を、財布の中にあるICカード乗車券が持つまでになりました。インターネットに代表されるITの最大の特徴は「時間や空間を越えられる」ことで、地球は一気に小さくなりました。消費者の立場で言えば、世界中から一番自分の希望に沿ったものを選ぶことができます。供給者の立場で言えば、世界中が市場になるのですが、逆に世界中が競争相手になる側面もあります。

東京湾アクアライン建設に携わった方にお話を伺ったことがあります。当初、南房総への横浜・川崎からのアクセスが良くなるので、南房総の観光客増加が期待されました。結果は南房総から横浜への観光客が増えたことだけが目立ったそうです。これを「ストロー現象」というらしく、

より強い方へ吸引されたわけです。地球が小さくなったIT時代には、地域も企業も個人も、強いものだけが生き残る傾向が強まるに違いありません。求められるのは、それらが本来持っている個性を活かすことだと思います。

県央・湘南エリアは、大消費地である横浜・川崎の近隣でありながら、豊かな自然と歴史の重みを兼ね備えています。以前、私達（竹中工務店さんと日立グループの有志からなる研究会）は海老名市のあるエリアに「匠の街」をテーマとした地域開発のご提案をし、国土交通大臣賞をいただいたことがあります。海老名市がかつて街道と河川交通の交流点だったことや相模の国の国分寺があること、ハイテク産業が多くあることなどを地域の個性ととらえました。文化と伝統、自主独立の姿勢、連綿と息づく匠の系譜などをヒントに、現代の匠であるベンチャー企業育成の街を提案したものです。（図参照）



相模国、国分寺想像図

「匠の街」の提案イメージ

ツインシティにIT時代の企業が栄えることを夢見て

梶浦敏範 (株) 日立製作所

ツインシティ構想を拝見して思うことは、自然や歴史に加えて近郊に慶応SFCという知の集積点を持っていることが、新幹線の交通と並んで有利だろうということです。10年ほど前、ドイツとオランダ国境の街アーヘンに滞在したことがあります。ここはカール大帝の別荘やローマ帝国の北限遺跡がある歴史の街ですが、アーヘン工科大学という有名な学府のあるところでもあります。大学発のベンチャー企業がつぎつぎに興り、シリコンバレーに近い活気を感じたものです。

ツインシティも、時代にマッチした企業が続々産まれるようになれば、ヒト・モノ・カネといった資源が集まってきます。繁栄が繁栄を呼ぶ好循環になるでしょう。それではどういう企業が時代にマッチしているのでしょうか？ IT業界にいるものの目から見ると、ITそれ自体をどのように作っていくかと比べて、ITをどのように使っていくかを考えることへの比重が高まっています。人材で言うと、工学博士や理学博士でなくとも、文科系の能力も含めて「ITともうひとつの専門がある人」が望まれています。

慶応SFCは、ITをどのように使うかを社会全体の中で考える、という意味で非常に優れた活動をされ、人材を育てておられると思います。ツインシティでこういうビジネスをしたい、そのためには会社や設備はこうでなくてはならない、ということが見えてくればITは相当のことができます。地域を限った放送も、効率的なオフィスも、省エネルギーなどの環境対策も、ITで格段に実用性が増しました。ITの進歩は冒頭申し上げたように著しいので、今は技術的や経済的に難しいことも来年には可能になるかもしれないのです。こういうトレンドを十分に活かせる企業こそ、時代にマッチしたものでしょう。

「まちづくり」は古今東西共通の課題です。近代日本でもいろいろな取り組みがありました。成功した事例を見ると、地域に思いの深い、卓越した人材を得ることが鍵のようです。そのような人材を育てることから始めても遅くはないかもしれません。まちづくりの真髄は人づくり、それを学府・行政・企業の連携で進めることが近道のように思えます。

梶浦 敏範 (かじうら としのり)

(株) 日立製作所 情報・通信グループ
経営戦略室 政策分野上席コンサルタント



- 1981年 名古屋大学工学研究科修士了 (情報工学専攻)
- 1981年～ (株) 日立製作所にて、IT機器開発、IT応用分野開拓に従事
- 2002年～ 幹部スタッフとして、IT政策関連の新事業開拓に従事、IT戦略本部評価専門調査会事務局の一員として、座長を務めた庄山会長をサポート
- 2005年～ 経団連「次期IT戦略検討プロジェクト」員
- 2006年～ 特定非営利活動法人「事業継続推進機構」発足に関わり、理事に就任 (社) 日本プロジェクト産業協議会「国際競争力強化戦略WG」委員
総務省「ICT分野における研究開発人材育成に関する研究会」WG員

県民フォーラム 「新幹線新駅と地域づくりを考える」を開催しました

昨年11月16日、茅ヶ崎市民文化会館において、県民フォーラム「新幹線新駅と地域づくりを考える」を開催しました。

当日は、280名の方々のご参加のもと、慶應義塾大学・國領二郎教授、三菱地所株式会社・渡会一郎氏、株式会社日立製作所・梶浦敏範氏、松沢成文神奈川県知事が、それぞれの立場から、新幹線新駅への期待と、県央・湘南都市圏を魅力ある地域としていくための提案などを話していただきました。

【冒頭公演】

- 神奈川県知事 松沢成文
「環境共生モデル都市『ツインシティ』の整備と県央・湘南都市圏の発展に向けて」
- 慶應義塾大学総合政策学部教授 國領二郎
「地域と大学の連携で未来社会を実現する」
- 三菱地所株式会社執行役員横浜支店長 渡会一郎
「仙台都市圏・郊外立地における環境共有都市づくり～泉パークタウンの事例研究～」
- 株式会社日立製作所情報・通信グループ経営戦略室 uVALUE ビジネスインキュベーション本部担当本部長 梶浦敏範

「まちづくりと地域情報化」

【パネルディスカッション】

司会・コーディネーター
アナウンサー（元TVKテレビ） 原 良枝

冒頭講演の内容を基に、県央・湘南都市圏の魅力や、この地域がさらに魅力ある地域として発展していくための方策などについて、各パネリストに語っていただきました。



服部茅ヶ崎市長の開会あいさつ



パネルディスカッションの様子

（順不同・敬称略）

この他、会場では昨年夏休み期間中に、平塚市と寒川町において小学生を対象に開催しました、絵画コンクールの作品展示も行いました。

講演やパネルディスカッションの詳しい内容や、当日ご参加の方々からいただいたご意見を、同盟会ホームページで紹介しています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/shin-eki/>

☆ コラム

新駅に期待する

このコーナーでは、県央・湘南都市圏の首長や業界団体の代表者の方々に新駅等への期待をお話いただきます。

綾瀬市の将来都市像は、「緑と文化が薫るふれあいのまち あやせ」「ふれあい」をキーワードにまちづくりを進めています。



綾瀬市長 笠間 城治郎
かさま せいじろう



〈プロフィール〉

昭和18年生まれ
平成7年4月から 綾瀬市議会議員3期
平成16年7月から 綾瀬市長、現在に至る
主な役職・・・全国基地協議会理事など
モットー・・・「誠実奉仕」

綾瀬市では、魅力あるまちづくりを推進するために、市中央部で区画整理事業を実施し、大型ショッピングセンターを誘致するなど、都市としての中心性を確保し、快適な住環境と高い利便性、機能性を備えた都市空間の創造を図りました。

また、藤沢市から相模原市までを広域的に連絡し、本市の中央を南北に結ぶ都市計画道路寺尾上土棚線が、藤沢市境から県道40号（横浜厚木）線まで4車線となるなど、“まち”も大きく様変わりしています。

さらには、（仮称）綾瀬インターチェンジ設置に向けた取り組みを進めるなど、都市機能の充実により、綾瀬市のポテンシャルは着実に高まっているところです。

こうした中で、県央・湘南都市圏の整備及び寒川町倉見地区への新幹線新駅を核としたツインシティ構想が実現することにより、全国の都市と県央・湘南地域の各都市との交流が活発化し、都市圏全体の発展へつながるとともに、本市においても市民生活のさらなる向上をもたらすものと期待しております。

このような広域的な都市交通ネットワーク形成による大きな効果を十分に認識し、今後とも期成同盟会や近隣市町及び関係機関と連携を図り、新駅の誘致活動を促進するとともに、ツインシティ構想の早期実現を願っております。

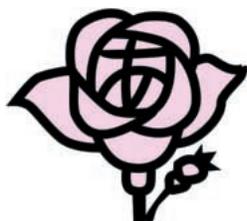
市章



(昭和27年1月1日制定)

市の花

ばら



(昭和49年12月1日制定)

市の木

やまもみじ



(昭和49年12月1日制定)

市の鳥

カワセミ



(平成14年7月7日制定)

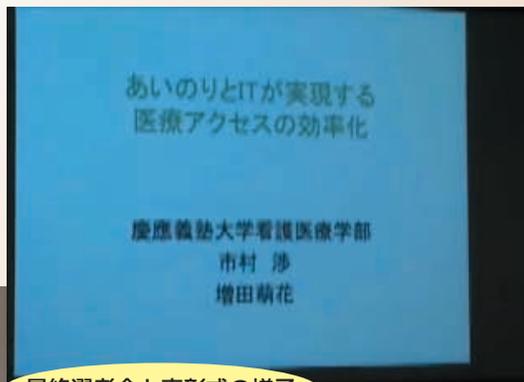
市章は、かな文字で「ア」・「ヤ」の構成により空間「S」をつくる。「S」は瀬の頭文字につうずる。綾瀬の向上発展性を印象づけて日の出と雲を象徴したものです。

慶應義塾大学 「SFC Open Research Forum 2006 まちづくりアイデアコンテスト」 ～神奈川県知事賞は看護医療学部の市村さん・増田さんに～

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）の研究成果の紹介により更なる産官学連携の推進を目的とするイベント、「SFC Open Research Forum 2006」が、昨年11月22・23の両日、東京・丸の内で開催されました。そのセッションの一つとして、神奈川県が整備を計画しているツインシティを題材に、まちづくりのアイデアを競う「ORFまちづくりアイデアコンテスト2006」が行われました。

神奈川県からは、尾高副知事ほか2名が審査員として参加しました。

最終選考会では、予選を勝ち抜いた10組の中から、慶應義塾大学看護医療学部の市村渉さんと増田萌花さんのアイデア、「あいのりとITが実現する医療アクセスの効率化」が神奈川県知事賞に選ばれました。



最終選考会と表彰式の様子



【受賞者と知事が懇談】

1月31日、神奈川県知事賞を受賞されたお二人が、同大学大学院政策・メディア研究科講師・ORF実行委員の梅嶋真樹氏とともに、海外出張のため最終選考会に出席できなかった松沢知事を訪問されました。

当日は、受賞アイデアの内容説明に始まり、まちづくりのアイデアなどの意見交換を交えながら懇談されました。

知事訪問の様子

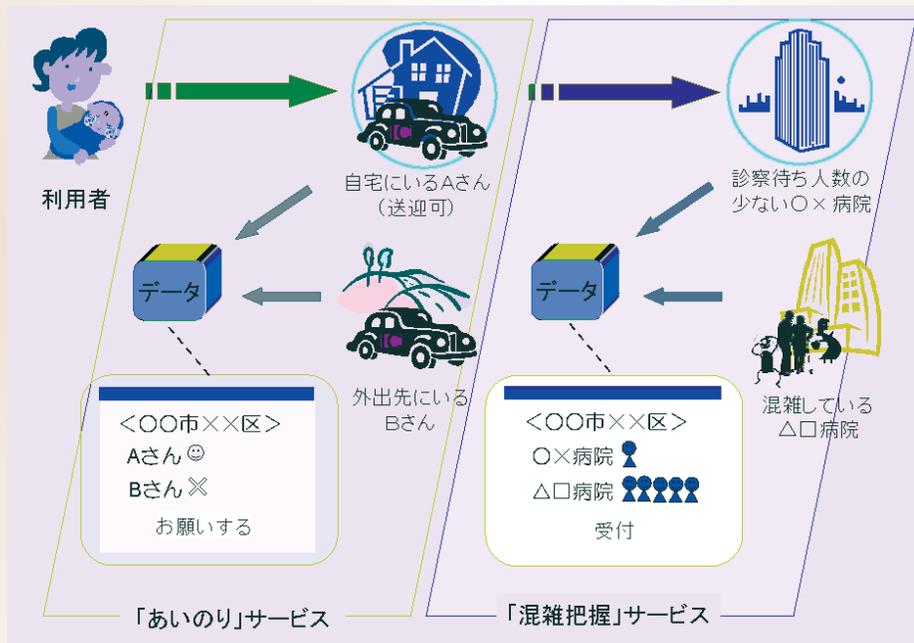


「利用しやすい医療サービスの実現と ツインシティの新たな魅力」

市村 渉
増田 萌花

私たちは、今後寒川町倉見地区と相模川対岸の平塚側地区に築かれるツインシティにおいて、地域の施設やサービスが利用しやすい環境を地域ぐるみで支えていきたいと考えています。ツインシティが暮らしやすい街であるためには、地域の施設やサービスが誰にとっても利用しやすい環境にあり、加えて住民同士が信頼し協力し合う関係にあることが大切であると考えたからです。

私たちはこの思いを実現するために、特に医療機関へのアクセスに着目し、2つのサービスを提案しました（右図参照）。1つ目の「あいのり」サービスでは、予め登録されたボランティアの車の空き状況を携帯電話等から確認できるようにすることで、高齢者や小さい子どもを持つ母親など気軽に外出をすることが難しかった人が、病院に行こうと思ったときに送迎を依頼できるようになります。また、



2つ目の「混雑把握」サービスを利用すれば、これまでは行ってみなければわからなかった病院の診察待ち人数を携帯電話やパソコンから確認することができるようになり、空いている病院を今いる場所から予約した上で行くことができます。この2つのサービスを利用することで、私たちは移動手段の確保から受診までをスムーズに行うことができるのです。

これらのサービスは、将来的に公民館や商業施設などへも応用することができます。そして、このサービスがツインシティに広く根付けば、外出のしやすい環境が整い、同時に住民同士の交流も活発になることが考えられます。また、住民の手によって支えられるサービスが築かれることで、地域の見守りの目が育まれ、防災・防犯などにも寄与することから、あたたかく暮らしやすいツインシティの実現へと結びつくのです。

私たちは4月からそれぞれ病院と企業で働きます。大学内を中心に学びを深めていたこれまでとは環境が異なりますが、そうであるからこそ、アイデアを実現するチャンスが広がると期待しています。医療・介護・福祉の現場は一般的にIT化が遅れており、それがサービスの向上を妨げていると言われています。その原因や解決の糸口はどこにあるのかを現場で見きわめ、ツインシティに還元できるのは、医療とITを学んだ私たちの特権であり使命であるとも感じています。それぞれの立場の違いを生かし、医療の現場や行政、企業がより一体となって街づくりに取り組めるような社会を先導していきたいです。

今後はより多くの方々と意見を共有し深め合えるようなシンポジウムの開催、大学でのプロジェクト化等実現へ向け、皆さんと協力しながら一つずつ形にしていきたいと考えています。ツインシティにたくす思いを実現へと変えてゆきましょう。

「企業・大学懇談会」から知事に提言書

昨年11月9日、県央・湘南都市圏の企業や大学で構成する、「ツインシティ整備に係る企業・大学懇談会」（座長・斉藤進産業能率大学経営学部教授）から松沢知事へ、ツインシティのまちづくりについての提言書が提出されました。

「企業・大学懇談会」では、平成16年12月の設立から今日に至るまで、約2年間（開催回数9回）にわたり議論を進め、多様な視点と発想から多くの意見が提案されました。

この提言書は、これらの意見を「ツインシティがめざす4つの都市像」に対応させて集約し、18項目にわたる提言としてとりまとめられたものです。



提言書の内容や、「企業・大学懇談会」については、

神奈川県県土整備部県土整備総務課 環境共生都市整備担当 電話(045)210-6036 へ。
提言書はこちらでご覧いただけます。<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/kankyou-kyousei/>

「ツインシティのまちづくりフォーラム」を設立しました

平塚市大神地区及び寒川町倉見地区で進めている「ツインシティ」のまちづくりについて、県央・湘南都市圏に位置する大学の様々な分野の研究者が、それぞれの専門的立場から諸課題を研究し、解決策や整備方向について知事に提言することを目的に、昨年10月、「ツインシティのまちづくりフォーラム」が設立されました。

【メンバー】
(順不同・敬称略)

慶應義塾大学総合政策学部教授	國領 二郎
(設立発起人・座長)	
慶應義塾大学看護医療学部助教授	末安 民生
産業能率大学経営学部教授	斉藤 進
東海大学工学部教授	杉本 洋文
東海大学文学部助教授	谷岡 理香
日本大学生物資源科学部教授	勝野 武彦
神奈川工科大学情報学部助教授	相浦 宣徳

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会について

「神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会（平成8年5月設立）」では、寒川町倉見地区への東海道新幹線新駅の誘致活動を行っています。

平成18年度は、5月、8月、11月の3回にわたり、国会議員や国土交通省、JR東海等に対し要望活動を実施しました。

県・市町担当窓口

神奈川県	県土整備部県土整備総務課	045-210-6038(直)
平塚市	都市整備部都市整備課	0463-23-1111(代)
藤沢市	計画建築部都市計画課	0466-25-1111(代)
茅ヶ崎市	都市部都市政策課	0467-82-1111(代)
相模原市	都市部都市交通計画課	042-754-1111(代)
厚木市	市政企画部広域政策課	046-223-1511(代)
伊勢原市	市長公室企画調整課	0463-94-4711(代)
海老名市	まちづくり部都市計画課	046-231-2111(代)
座間市	企画財政部政策課	046-255-1111(代)
綾瀬市	企画部企画課	0467-77-1111(代)
寒川町	都市部新幹線新駅対策課	0467-74-1111(代)

東海道新幹線新駅の誘致活動については、期成同盟会のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/shin-eki/>

発行

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会〔事務局：神奈川県県土整備部県土整備総務課〕
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
電話：045-210-6038 ファックス：045-210-8879
E-mail：kankyou-kyousei.50@pref.kanagawa.jp

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています